

五月の一週間

S . K



満四年三ヶより満五年一ヶ月までの幼児、男児十九名、女児十一名
の二年保育の年少組

今週の豫定

四月八日に入園して以來三十日餘り、やうやく幼稚園でも自分を出して遊べる様になつた、お友達同志のお名前も覚えられた様だ。しかし未だ朝お附添はなれにくい者が一人、お部屋の外に出て遊ぶことの出来ない者が二人ある。皆の遊びも断片的、個別的なものゝ方が多い様だ、もつとお友達同志遊ぶことの面白さを味はせる様にしてゆき度いと思ふ。今週の豫定もそんな心持で準備してみやう。

自由遊び 釣りごっこ・汽車ごっこ

釣りごっこの準備

先週畫用紙に膽寫したお魚を皆で色をぬり切りぬいたので、それを二つ合はせ、中に新聞紙をこまかに切つたものをほんの少々入れて糸で縫ひ合せ、口の所に針金を簡単に輪にしたものをつけておく。五十糎程のしの竹に三十糎位の稍く太い糸をつけ糸の先に釣り針の様に針金をまげてつけておく、これを子供の数だけ用意しておく。糸が長すぎたりほそかつたりすると、もつれるから注意しておく。次にお部屋の適當な場所に箱積木をかこひにして適宜な大きさにつりばりを作り、中に前に作つたお魚を入れておく、側に「ツリホリ」と立札を立て、おく。

汽車ごつこの準備

四米位の適當な太さの繩を求め、これを輪にしたものを三つ程用意しておく、切符切りの鉄一つと、畫用紙の切り屑を切符の大きさに切つたものと用意しておく。これだけで汽車ごつこは充分面白く遊べることと思ふが、木切れを集めて改札口の柵を工夫し、出口、入口、キップウリバ、等の立札も作つておいてみやう。

誘導保育

水族館

準備

角材(一寸位)にて高さ一米間口一米半奥行七十糎位の枠を作り、背面及び天井にはボール紙をはり、兩側面はセロファンをはつておく、そして砂箱又は机を二つよせたものゝ上にのせる。次に白ボール紙、うすい畫用紙、白模造紙、等を用意し、何か参考になりそうな繪のかいてある本等も仕度しておく。

缺仕事 金魚

自由畫 自由畫帖の他に四つ切畫用紙を用意。

唱 歌 ミザアソビーエホンシャウカ―

遊 戲 ミザアソビーエホンシャウカ―

人形芝居舌切雀・天狗退治

童 話 ボチミおまんじゆう、赤んぼお爺さん・三匹の

小犬のはなし・おむすびころりん

五月十七日 月曜日 晴 (實習科生實習日)

今朝は一人も残らず氣持よくお附添の手からはなれ、本當によく遊ぶ事が出来た。庭に出て、来る子供をむかへたので皆庭靴にはきかへて外に出る。主に砂場で實習科生一しよにお池作りだ。今日までは砂遊びミ云つてもおだんご作りやお山作り等が主で、お山にさんねるを先生一しよにあげる事に最も興味を持つてゐるが、今朝は早く来たHさんの發案で池を堀る事になつたらしい。来る子供も来る子供も水の入つたこのお池に引つけられてしまつた、ぎろくろくの水の中におしよもじを入れては中の砂を出してベタ／＼池のふちをたゞいてゐる。砂遊びがこんなになつたのは今日はじめの事だ。女兒はブランコに數人實習科生におしてゐたゞいてゐる。さうしても外に出られなかつたMさん・Nさんはやはりだめだ、そして小さい聲で「僕御本よむのがいゝの」云ふ、實習科生に御本を讀んでいた

よく。Nさんの方は本にも興がないらしく、お窓にもたれて外の遊びをみてゐる。やつこ數日前に附添の手をすつかりはなれる事の出来た二人であるから、まだもうしばらく様子をみることにする。二人は外には出ないのだ。自他共に思ひ込むでしまふ。若しその機會があつた場合にも、すなをにあられなくなつてしまふおそれがあるから、當分は無理に外に出る事をさそはずだまつてゐることにしやう。

九時過ぎた頃ブランコのりの數人を誘つて室に入り自由畫をはじめた。今日は四つ切りの畫用紙に描くことにした。この大きな紙に描くのは今日で三度目である。(各幼児の繪をみてゆき度いと思つて一ヶ月に二回づゝ四つ切畫用紙にかゝせて、まつておく。二年後の修了の折にはずゑの面白いものがみられる。)K子さんとMさんの二人は未だ繪としてはまさまらない、二人共紙を一ぱいにつかつてクレオンを力一ぱい動かせてゐる。K子さんのは人の顔らしいものが真中に一つ出来てゐる。Mさんははじめはお家が火事だ火事だ云つて今日も眞赤にぬつてゐたがその中雨が降つて來たの、云つて黒いクレオンを上から下へ走

らせてゐる。するゝ今度は雨の中を自動車が行つてゐる。自動車らしきものをかく。説明をきゝながらよくみてゐる。この繪の何も彼も生々として動いてゐる様にみえる。もつこかき度い云つて大部分の者が二枚程かいた。その中砂遊びの連中も手を洗つて入つて來て描きはじめた。裏に自分の名前を記させ年月日を記しておく。

仕度をして遊戯室に行く、遊戯をしないのはMさんだけになる。はじめにこまざりを新らしくしてみる。はじめの數回は圓周上を行つた、スキップの出来ぬ二三人の者もすり足で羽をひろげて面白そうにしてゐた。大きい組のをみてゐたためか女兒等はよく分つてゐた。數回の後自由な方向に行つた、皆思ひ思ひに椅子の間やピアノの下等に向つて喜んで行く、これがさんなにか面白いらしい、數回してから皆元の位置に戻る様にした。くつやさん、たんぼ、てふく、鳩ぼつぼ、まゝご、雀の子等した後、一人づゝスキップをする。スキップの時ほご子供達の顔がうれしそうに見える事はない。ピアノに合はせて力一ぱいにきび廻つてゐるのだ。

お部屋に歸り、お仕度をしてお食事にする。お仕度も皆一人で出来た、お椅子をふかく入れる様注意して以來は床の上にこぼす者は殆んどなくなつた、今日はお湯をこぼした者もなく皆正しくいたゞけた。

午後はお庭に植木屋がおこした八つ手の葉を拾つては、先日みた人形芝居の天狗の團扇を思ひ出したのであらう、獨白通りにバフ／＼／＼先生を追ひ廻してお山を上つたり下りたり大變な騒ぎ、大銀杏のミころでたう／＼天狗はこの大勢の小太郎に降参してしまつた。やがて仕度をして一時半御機嫌ようをしておかへりにした。

今日は何もなく落つたよい日であつた事がうれしかつた。毎朝先祖の位碑に子供が無事でありませ様に、きたゞそれのみを祈つて来るが今日もこうして無事に過すこゝが出来たと思ふミ本當に有がたい感謝の氣持で一ぱいである。

五月十八日 火曜日 曇 風強し。

昨夜は妙な夢をみた。S子さんが椅子にかけたまゝ一寸横に轉んだ拍子に隣の椅子に足を打ちつけた、足からは血が出てする分長く切れてしまつた、應急の手當をしてか

ら大急ぎでお宅にお電話をかけ様としたがさうしても番號の字が讀めないのだ、あせつてもあせつても字は見えなくなるばかり。夢でよかつたミ安心。あまり怪我の事はかり心配するからだ、ミ皆に笑れたが、自分はこの主人公がS子さんである事にドッキリしたのだ。いつも朝離れにくいし、兎角何事にも手のかゝる子供だ、ミそんな心持で接してゐたのであらう。心にすぎが出来てゐるぞこの神佛のお警めであらう。朝、無事なS子さんの顔をみてホツとした。

來る子供も來る子供も外に出ては、そこにおいてある改札口の柵の出入口の札をみて「これ何」ミきく。こゝは驛、こゝで切符を買ひ、こゝで鉄を入れ、汽車にのり出かける事を説明する。柵も立札も、卒業した前の組の方が用ひたものが物置にあつたので拜借して手輕に間に合つた。それが汽車なの、ヒヤ一その綱か、車のない汽車だつてさ。ミYさんが云ひはじめのミ、皆が「へんだね。」を連發。しかし皆早速その汽車にのつてみた。お机を一つ外に出して切符の入つた箱をおき、切符賣りには女兒二人をあてる。切符を切る役は皆がなりたいたので交代にする事にお約束をし、い

つもおきなしにAさんに先づしていたゞ。運轉手も車掌も交代にする。元氣のいゝ男兒の列車はピリピリッの合圖と共に急行を出してお山を登りはじめた。あはてゝ急行列車ではないことをお約束に行く。今まで外に出なかつたNさんも知らぬ間に汽車にのつてゐる、うれしかつたがだまつて見ぬふりをしてゐた。その中に驛夫さんも交通巡查も出來た、プラットホームにはだんゞお客様がふえてゆく。お部屋では女兒が屑書用紙の箱をかゝへて切符を買ふお金を作つてゐる。この連中は切符を買ふことよりもたゞゞお金作りに夢中のていである。切符賣り場を手傳ふ、熱海二枚下さいさか大阪一枚等いふ通りに字をかいて渡した。名古屋行には名古屋城の繪を一寸すみにかいたら皆大よろこびで、皆が名古屋行になつてしまつた。走る汽車の方も心がかりなのであきについて歩く。この遊びも大きい組であつたならさんなにか發展して行くことであらうと思つた。子供は實に大よろこびですつかり遊びに没頭してゐた。一寸したことでこの様にまでよろこんで遊ぶことが出來たと思ふさ本當にうれしかつた。

汽車をお部屋の中の車庫に入れて人形芝居をした。さう

しても外に出ないMさんは餘程人形芝居が好きさみえる、先日以来毎日「今日人形芝居してよ」さそつささゝやきに來る。種々都合もあつて毎日は出來ないのが心にかゝつてゐた。今日はMさん大よろこびでお仕度をした。人形芝居さ云つてもこの組でするのは、一々離れた作業室から舞臺を運ぶのは一人では出來ないので、いつもまゝごこの家の中に入つて、一番大きい窓の所から人形を出すので、幕も背景も無いのだが、そんな事でも子供のよろこび様は大したものなのだ。一人きりするのでいつも天狗退治をしてゐたが、今日は舌切雀もしてみた。はじめてなので皆たゞ靜かに見てゐた様であつた。雀おぎりの時には手が二つしかないので本當に困つた、お爺さんさ雀はかげで見てることゞして、二羽の雀が唱歌に合はせておぎつたが、前に工夫してお爺さんさ雀を立つ様にしておけばよかつたと思つた。天狗退治の方は數回目なので子供もすつかり獨白を覺えて、小太郎が團扇をさりそこねて天狗に怒鳴られる所の前に來るさ息をこらして居るらしい、「こわい、さいふ聲もきこえる。最後に成功する時は「しつかり」さ應援し一緒にバフゝゝゝさ夢中になつて云つてゐる。すむ

「Mさんは「又あしたもね、」と、そつと云ひに来る。ラヂオをきいて後お食事にする。

午後は又汽車ごつこを、ご思つたが、外はあまりひさい風なので、お部屋の中で御本を讀んだりつりばりのお魚を釣つたりして遊んだ。お歸り前に、ボチごおまんじゆう・赤んぼお爺さんのお話をした。いつもお話の時に何でもその都度きゝかへすKさん、ボチごおまんじゆうの話の時「先生早く今のうち拾へばいいのに、」はらくらくして心配してる、やがてそれがジャガイモである事がわかると、「何だおれもだ、」と一人でくつゝご笑つてゐる。お話がすむとすぐに靜かに御機嫌ようをしてお別れした。一日一日目に見えてよく遊べる様になるので本當にうれしい。殆んごお休みもなく悪い病氣も入らない、有難いことだ。

五月十九日 水曜日 晴

今朝はさうしたのかS子さんがすぐには離れなかつた。

S子さん自身も朝は何となく心細いのであらうが、お母様の方がもつご心細いのであるらしい、「さあ、さよならごお云ひなさい」とおつしやる。一度さよならがお母様の耳に入つても、その手をつないだまゝもつご大きいお聲で云つ

てちようだい「ご何度もおつしやる。S子さんもこうなればだんぐさよならが出来なくなつてしまふ。いつもお母様のお歸りになつた後は、大變な元氣でお話も大きな聲で出来るし、皆さよく遊ぶのであるが、お母様の前ではますゝお母様を心細くおさせする様な態度ばかりなのだ。Mさんが今日はお山の上り口の所まで何度も往復してゐる。Nさんさいひ、Mさんさいひ、こんなうれしいことが早く實現しやうごは思はなかつた。

外では汽車ごつこもはじめられたし、お砂場でも大それた落付いて積木の汽車を走らせてゐるので、時々外に氣を配るごきにして一先づ内に入り、數人づゝ呼んで金魚のぬりゑをした。皆ぬりゑは大好で女兒等はも一つぬり度いご云つてゐた。今日はお机の眞中に金魚鉢をおいてそれをみてぬる様にした。砂場から入つて來た數人の男兒、水槽の中のメダカをみてゐた。おなかの中がすき通つてきれいにみえるごきなき、お話し合ひしながら。お砂あそびの者も少しづゝ入つてぬりゑをした後、Mさんがあまり催促するので今日も又人形芝居をする事にした。今日はお隣の川の組の方も御一緒に見て下さつてうれ

しかつた。

お食事の時何かにつけて落付くこゝのないK子さんが、お辨當を皆にみせて廻つてゐる中に、床の上に落してしまつた。中からは小さく切つた子供パンがころ／＼全部ころげ出してしまつたのだ。これは汚いからやめませうと云つたが、さうしてもきかぬ、これを食べるのだと大聲で泣き出す。云ひ出したらきかぬ性質のこの子の事だ、する分困つた。他のパンではいやだと言ふし、兎角お腹をこわす事の多い子供である、まして今日はパンが入つてゐるのだから少々工合が悪いのかも知れない、大急ぎでお宅にお電話をして持つて来ていたゞくこゝにされた。皆に先に召し上れをしてからますます泣くK子さん、部屋を出てお玄關でお辨當のミヅくのを待つ。お母様が同じパンをお持ち下さつたのですつかり機嫌がなをる。

午後は少々暑すぎる位であつた。皆お山の下のお池の所に竝んで寫眞を撮つた、皆揃つてうつつ寫眞はこれで二回目である、相變らずNさんやKさんがちよろ／＼ミヅび出して來るのでなか／＼撮れない、する分時間がかつてしまつた。

お歸りの時水族館のお話をし、このお部屋でも水族館を作りませう、とお約束してからお別れした。

五月二十日 木曜日 曇 風強し。

朝來た子供から少しづつ水族館のお魚をかいだ。大きい畫用紙を與へたが皆割合に小さいものばかり出來てしまつた。先週釣つたこのために澤山謄寫すりのお魚に色をつけたので皆割合に樂しそうにしてかいてゐた。小さいのは餌にするのだと切り屑でも澤山作つてゐた。龜をかくと云つた者があつたので、白ボール紙の切り屑を與へたところ、皆龜になつてしまつた。數人には白模造紙二枚つぎ合はせたいものに背景をかいていたゞく。皆なか／＼くわしく、「いかは泳ぐ時はこうして泳ぐよ。」「たこは赤いのではないのだよ」等と云ひながら描いてゐる。先生も一緒に手傳つた。

氣にはかけてゐるが少しづつ外に出るた子供の方がすつかりお留守になつてしまつた。砂場のお池作りにはこの頃すつかり面白さを覚え、さつさとお水を運んでお池にしてしまふ。來週は水鐵砲や水車等を仕度してこの種の遊びも少々しろ水あそびから變へねばならないと思つた。

皆お仕度をして遊戯室へ行く。新しくミヅアソビの唱

歌をうたふ。お部屋のオルガンでうたふ時きはすつかり気分がちがふ様だ、いつも唱歌はピアノでしたいものだ等も思つた。皆で三回程うたつたらすつかり一番はおぼえられてしまつた。遊戯もはじめにミヅアソビの一番を一しよにした。水鉄砲から水を出す動作は特に力を入れて面白そうにしてゐた。途中で御不淨に行つたAさんがながく歸つて來ない。皆を圓形のまゝそこにすわらせて、その場から動かぬ様お約束してさがしに行く。ぎの御不淨にもゐない、お部屋にもお庭にも見えない、するま職員室からばあやさんに手を引かれて出て來た。間に合はなかつたのだそつうだ、日頃氣の小さいAさん、御不淨に遊戯の途中で行く事は止めるお約束があまり強くひびきすぎて云ひ出せなかつたのであらう、本當に可哀想なことをしてしまつた。注意せねばならぬ事だ。今日のお食事は何事もなく過ぎた。此の頃はお食事中のお話がする分はずむ様だ。四つのお机さも實習科生を相手に大そう面白そうだ。午後は又風が強いので内で自由畫帖に繪を描いたり、水族館のお魚作りのつゞきをしたりして靜かに過した。

五月二十一日 金曜日 雨

朝から雨なので紙飛行機を澤山折つて今日のお部屋の中のお遊びに用意しておく。早く來たHさん、僕も作れるま手傳ふ。つりぼりもすつかり整理しておく。來た者から順に數人づゝ金魚鉢のおいてあるお机で金魚の切り紙をする。鉢や藻も切る。糊はやはり先生がつけて、はるのは自分でする事にし、切り屑を必ず籠の中に入れる事も又お約束する。

つりぼりは今日は大變な繁昌ぶりで女兒も澤山釣りに來てゐる。まゝごまのお家では女兒がまゝごまをはじめた。そのお家のお父様になつたYさんや、お兄様になつたAさんは、籠を下げて、つりぼりに行つては釣つて歸る。「はいお土産です」、「まあ〜きうもありがたうございます、早速フライに致しませう」等。しまひには釣掘りで釣つてゐる者がお魚屋さんになつてこのお家に賣りに來る。つりぼりの中のお魚は皆まゝごまの家に來てしまつたしお料理されたのもする分あるらしい。又誰か元に戻しては釣つてゐる者もある。こうしてする分面白く遊びが發展してゆく。皆が部屋の中にあるので一方で切り紙をみてゐても、する分らくな心持で落付いてしてゐられる。用意した紙ヒコ

「キもつかはずにこうして大そう面白く遊びがつけられた。一方では白模造紙を興へて水族館の中に入れる海藻も作つた。

お食事後お片づけがすむでから、おむすびころりん・三匹の小犬のお話をした。お話は皆大好きで、いつでも、もつとして〜、大變なさわぎだ。今日のお話は二つともする分面白そうだった。いつも口数の少いNさんが、「時計なのに犬つてばかだな。」と一人ごみを云つてゐた。おむすびころりんでは皆する分笑つてしまつた。お歸りのお仕度の時までに、「重箱 ころりんすつみんく」、「お爺さんころりんすつみんく」、「面白く云ひつけてゐた。雨の日は比較的騒がしくなり勝ちなのに、今日は本當に落付いて過せた様な氣がしてうれしかつた。

五月二十二日 土曜日 晴

十日前に蒔いた朝顔が、昨日の雨で濕つた土の上に三つ四つ芽を出してゐた。毎朝来るま必ず自分の鉢を氣つかつてゐた子供達大よろこびであつた。お池の水が大そうきれいで鯉や金魚がよく見える、皆でお話ししながらやゝしばらくお池の鯉や金魚をみてゐた。「金魚が澤山行列作つてき

つミ幼稚園に行くのよ。」むかふから先生がいらつしやつたわ。「今度は廻つてきつミお遊戯してゐるのでせうよ。何のお遊戯でせうね。」等。可愛いゝ會話がづく。いつも理窟を云ひ出すYさんも靜かに見てゐた。

皆お部屋に入つて粘土をはじめた。今日は水族館の中に入れるかにかめ・さんご・等作る心もちであつたが、皆實習科生を相手にして種々作つていたゞいては賣り屋さんごつこになつてしまつた。數人づゝグループになつてお菓子屋さんもあれば、果物屋さんもあるし、犬屋さんもある。

お金も粘土で作つて買つたり賣つたりして大そう面白くなつてしまつた。一時間以上遊んでしまつた。こちらの心持は違つた結果にはなつたが、一つの机に一人づゝ大人のゐる事によつてその一寸した心持でする分面白く子供が遊ぶ事が出來た。

お砂場で、三角の積木や四角の積木の上に砂をのせ、ふじの花を拾つてのせたりして、お菓子屋さんごつこをしてしばらく遊んだが、短い土曜日はすぐにお歸りの時間になつてしまつた。子供の歸つた後、澤山出來たお魚に糸をつけて水族館の中につるして見る。